

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成30年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(7/7)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
競争力と持続力を持つ交流6次化モデルの構築特区 (山梨県南アルプス市)	3.1	3.8 進捗度 ・耕作放棄面積 87% ・農業従事者 94% ・農業生産出荷額 103% ・農業所得 89% ・市人口社会増減数 476% ・観光入込客数 96% ・地域資源を活用する民間企業の誘致数 0%	2.5 地域独自の取組 ・雇用創出奨励金事業 ・南アルプスブランド戦略事業 ・農業次世代人材投資事業 ・中高年の新規就農者支援事業 ・若者世帯新築支援事業 等	3.0	<p>・規制の特例措置等を活用した事業や、国の支援措置に係る財政・税制・金融支援は活用実績がないが、地域独自の取組は相当程度、活発であると評価できる。</p> <p>・農業産出額、農業所得は増加しており、当該特区の農業生産力のポテンシャルはかなり高いものがある。このポテンシャルを生かした戦略を構築することが必要だと考える。</p> <p>・市の人口の社会的増加については、減少を食い止める方針だったものが増加に転じている。この点は画期的であるが、移住世帯の世代別や家族構成、就業先など、さらなる分析を行い今後の戦略に生かすことが必要であろう。</p> <p>・観光入り込み客数は増加しており、首都圏に近い立地条件をもっと活かすことができないか。</p> <p>・「地域資源を活用する民間企業の誘致」の具体像が依然見えない。完熟農園の跡地活用が難航しているようだが、市が目指す六次産業化や観光の拠点になるのかどうかも定かでない状況。事業の核はどこにあるのかが見えてこない。</p>